

中國の言語文字改革運動について

大原 信 一

は し が き

中國における言語・文字改革運動は清朝末期——近代社會への黎明期に最初のもりあがりを見せ、のち第一次世界大戦に起因する中國資本主義の發展と民族資本の成長、民主革命の推進によつて、まず「文學革命」という形およびそれに關聯して正面に押出され、五四文化革命の過程に初歩的な勝利を収めた。その後、現在に到るまでに、いくたの問題が論議され實踐されてきているが、この運動の本質をはつきりさせるためには、中國の近代化（中國がどのようにして新しいタイプの近代國家を形成することに成功したか）という全體的な問題との關聯において考察することが必要であらう。

そのためには、われわれは言語文字が社會や人間とどんな關係にあるかについて、確固たる立脚點をもたなければならぬ。言語文字に對する觀點はいろ／＼あるが「社會のすべての人々の通達の用具である」とともに、社會の發展と鬭争の武器である」という命題はこの運動を考察するにあつて最も重要な觀點ではなからうか。この基本觀點から、中國の近代化と密着させながら、運動の各段階を展望し、問題の本質を考察してみたい。

1 黎 明 期

アヘン戦争・太平天國以來、資本主義諸國の政治經濟軍事的侵略および舊社會機構の動搖・崩壊はます／＼顯著になつてきた。内外兩面からする深刻な打撃は當時十九世紀末期の有識者に、言語問題とくに文字問題に對する關心を喚起し、近代的民族國家へ道をきりひらくための教育の普及、民智の開發——その用具としての文字の問題がとりあげられるようになった。

洋務運動の時期の盧愷章の「切音字母」、日清戦争後の速成式字母、戊戌政變義和團事件後の王照の「官話合聲字母」や勞乃宣の「合聲簡字」などを始めいくつもの案が主として士大夫階級の改良主義者によつて出された。

これらの人々によつてブルジョア・デモクラシー運動の一翼として展開された切音運動はそれぞれニユアンスを異にしてはいるが、一般に漢字のむつかしさを認めながらも、漢字の正統的地位を否定して、文字改革の必要を正面から主張したのではなかつた。かれらの作つた新字母は漢字にそえる補助的なものにすぎなかつた。これは漢字の權威が絶大であつた時代的環境のためであり、また國民教育の用具として漢字の不適當さを知りつゝも古文の殘骸にしがみついていたしなければならなかつた士大夫階級の矛盾のあらわれでもあらう。

王照や勞乃宣は新字母によつて口語を表記することを主張したが、その場合の口語について王照は官語を主張し、勞乃宣はまず各地の方言を學んでから進んで官話に到るべきことを主張した。こゝには言文一致と標準語運動の萌芽がみられる。

この時期の方案は言語單位について明確な觀念がなく、綴り方の規則さえなく、精密において不十分なものであつた。しかし運動全體の歴史からみた場合、中國人が意識的に文字改革への行動を開始した起點として、また言文

一致・標準語運動の萌芽として、その意義と努力はみとめられるが、しよせんは黎明期の開始といふにとどまる。

2 注音字母運動と白話文運動

辛亥革命（一九一一年）は流産したブルジョア・デモクラシー革命であつたが、形の上で中國は民主國家となつた。前段階の言語文字改革に對する願望は革命後へ受けつがれ、より明確前進的な形で表われてきた。

革命直後、一九一三年、教育部の「讀音統一會」が開かれ、注音字母が制定された。この字母は章炳麟のアイディアの下に結集された諸種の勢力の妥協の産物である。南北折中のいわゆる國音によつて漢字音の統一を企てたもので、清末の字母が口語の表記を主張したのに比べて一步後退がみられる。當時、言語文字改革への願望の實現を阻む力は依然として根強く、注音字母の公布されたのは五年のちの一九一八年のことである。

袁世凱の帝制の陰謀は失敗した（一九一六年）が、陰鬱な軍閥の支配は革命後の中國に希望を抱いた人々から一切の光明を奪つてしまつた。國家的運命の打開を考えた人たちは行政機關の權力によつて教育上の重要な改革を企圖したが、最も緊迫した最も平凡な根本問題はやはり文字問題であることを改めて發見した。かくして文字改革が主張され、言文一致と國語統一が提唱された。

一部のインテリは注音字母による國語統一を強調し、軍閥政府に公布を請願し、民間に宣傳を始めていた。しかしかれらは主觀主義的なまちがいを犯していた。根本的な問題は封建勢力と帝國主義の支配にあることをみのがしていた。その解決なくして、他のすべての問題の解決は不可能であつた。注音字母による教育の普及を幻想し、そのことによつて半植民地半封建社會からの脱出を考えていたとするならば、かれらはまさしく逆だちをしていたと

いねばならない。

一九一六年、國語研究會が北京に成立し、會長に北京大學長の蔡元培がえらばれた。在京の會員は言文一致を身を以て實踐するため白話文の練習を始めた。

時あたかも北京大學の新鋭教授グループによつて雑誌「新青年」を中心として文化革命が活潑に展開され、「文學革命」が提唱されていた。一九一八年、注音字母が正式に公布された年、「新青年」は全文新式標點符號を採用し、完全に白話文で書かれるようになった。蔡元培を媒介として文學革命と國語運動の二つの流れが合流した。

「新青年」によつて提唱された文學革命の中心問題であつた白話文運動（言文一致の運動）は、封建勢力のきわめて兇暴な反對と妨害にかゝらず勝利を収めた。白話文すなわち口語の提唱は單に文體の改革にとどまらず、意識の變革を意味する革新運動であり、白話と文語の争はそのまゝ新舊思想の對立をあらわしていた。したがつてこの運動の歴史的意義はきわめて重大である。

その結果、文章は口語にもとづいて書かれるようになり、最も有力な全民的な言語に接近することになつた。このことは文章語をもふくめた全國民的な言語の發展の新しい段階を示すものである。この運動はインテリイの枠内に終始し、直ちに全民語のすべての特徴を文章に與えることができます、なお文語的要素をとどめ、必要以上に外國語の文脈をとり入れた缺點をもち、文學語としての表現の精鍊を將來にもちこしたが、文章語を全民語に近づけ、民族語のなかの一つの體系としての文章語の基礎を確立することができた。

一九一九年、國語統一籌備會が正式に成立した。すでに公布された注音字母の整理が行われ、北京音を標準音と

する方向へ進んでいく。しかし、南京に國民政府が成立するや、一九三〇年、ついに注音字母から注音符号へ後退をかねる。この改稱は注音字母が名實ともに漢字の附屬品となり、國民政府の文化的裝飾品となつたことを意味する。この讓歩は南京政府と封建勢力との妥協と歩調をとにもするものであろう。

注音字母による國語統一運動は成長し始めたブルジョアジーの國內市場の統一・近代民族國家建設への要求と願望の反映である。かれらが國語の基礎を北京語に求めたことは言語の發展法則からみて、正しかつた。しかし半封建半植民地經濟の落後性と孤立分散性の優位であつたことは、多くの國民をしていまだ國語學習の切實な必要を感じさせなかつた。このような條件の未成熟のため注音字母は當時において社會の發展と鬭争の武器たりえなかつた。

3 國語ローマ字運動

清末、パリイ存在の無政府主義者によつて漢字漢文を廢して 에스ペラント を採用せよと主張されたことがある。五・四いで、この問題は漢字廢止、中國語のローマ字化という形で新しくもちだされた。

すでに白話文運動が勝利して、文章はある程度口語化した。その結果、複音節語の増加は語句の字數の増加となり、また口語には表記するのに適當な漢字をもたぬ語が往々あつた。こうした困難のため、漢字は白話文の成長を阻む障害であり、この障害を除くためには表音文字の採用以外に方法がないと考えられるようになった。錢玄同や趙元任によつて國語ローマ字案が作られ、のちかれらは「數人會」を組織し方案を決定した。一九二八年、南京大學院から公布されたが、表音文字としてではなく、注音符號の第二式としてであつた。

國語ローマ字は中國ブルジョアジーの言語文字改革に對する要求の典型的な反映であつた。理論の上からみても、注音字母にくらべて大きな前進がみられるが、漢字に對す態度の急進性はかれらの進歩的な一面を表わすものといえよう。しかしブルジョアジーの脆弱さとかれらのおかれた多難な歴史的環境は、この運動に社會的基礎を與えず、南京政府の封建勢力との妥協後の壓迫と妨害の結果、漢字に讓歩してしまつた。さらに、同じ國語統一の用具でありながら、注音字母とちがつて、國語ローマ字自身のもつ反大衆性（文字組織の複雑さ）のため、この運動は瓦解してしまつた。

4 大衆語論戰とラテン化新文字運動

白話文は進歩的な内容を傳える武器として、次第に社會的に強固な地位をしめてきたが、その發展には一定の限界があつた。文學作品や雜論の論文を除けば、その應用範圍はまだ狭く、とくに應用文實用文はまだ文語による獨占状態を脱しきつていなかつた。白話文自身もまたインテリの言語をぬけきらず、また内容にも勞農大衆の生活との結びつきに缺けている面があつたため、白話文學は大衆のなかへ浸透しなかつた。

一九三四年、封建勢力によつて文語復興運動が公然と主張された。新興革命勢力を代表する作家や一般教育文化工作者はこのような逆コースの傾向に對して一撃を加えたとともに、白話文の改良にとりかかる必要を感じた。

文語・白話・大衆語の論戰が十種類をこえる新聞雜誌に連載されたが、文語復興論者は三四篇の文章を發表したのち影をひそめてしまつたので、問題の中心は文藝の大衆化・通俗化、大衆語、簡體字、基本漢字、ラテン化新文字へ發展していつた。文藝の大衆化と通俗化の論議の結果、白話に代つて大衆語でかくことが主張された。大衆語

とは大衆がしやべり、見、かくことのできる言語のことである。しかし大衆語の作品は表われなかつた。これは作家が大衆の中で實踐した經驗がなかつたこと、文化を生み出す根源が民衆の生産に結びついた生活にあることをみのがし、既成の文化をどうして大衆の間にもちこむかという方向から大衆化を考えていたからであろう。さらに後でのべるように言語の階級性および共通語と方言に對する偏つた考え方にも基づいている。

とにかく、この論戰の産物としてラテン化新文字が登場してきた。滿洲事變、上海事變以來、民族的危機はますます深まり、救亡の呼び聲は全國に響きわたつた。こうした潮流のなかに、ラテン化新文字運動がその戰線の一翼をになつて展開されていつた。

ラテン化運動は一九三一年にウラジオストクで開かれた「中國新文字第一次代表大會」で、秋白の案を改訂した「拉丁化中國字」が正式に制定されて以來、ソ聯内の各地に存在する中國人の間で實踐されていた。大衆語論戰によつて始めて國內に紹介されて人々の注意をひきおこすや、一年たらずの間に、南北各地にひろまり、種々の刊行物やパンフレットが續々出版された。以後、抗戰の初期まで繼續發展したが、抗戰の後期になつて、國民政府の妨害と軍事情勢の悪化などのため、いまた未成熟であつたこの運動は中途で停頓してしまつた。

一方、中共地區では一九三三年頃から江西のソヴェート區で始められたがあまりみるべき成果はあがらなかつたようである。陝北では一九四〇年頃から民衆教育にある程度の成績をあげたようであるが、のち識字運動にきりかえられてしまつた。實驗と研究は今なお繼續している。

この運動は理論上、技術上とくに國語ローマ字との論争を通じて、新しい創造と豊富な收穫をもたらしたが、文

字組織がきわめて簡易であつたので、比較的短期間にかなり成果をあげることができた。とくに民族解放運動と密接に結びつき、蔡元培や魯迅はじめ多数の作家や教育文化工作者の積極的な支持によつて、進歩的インテリの大衆運動として發展していつた。

あらゆる部門から民衆をよびままして、解放闘争へ組織することは當時最もさし迫つた問題であつた。ラテン化工作者は新興革命勢力のための言語文字の創造という一翼から民族解放運動の文化工作を擔當したのであつて、この臨時的突撃任務の達成のために闘つた點でラテン化工作者は正しかつた。

しかし、大衆語論者や初期ラテン化工作者は、言語の階級性を信じ、民族共通語の形成に對する偏つた見とおしから、北京語北方語を基礎として共通語が形成されつゝある事實をみのがし、また共通語から基本的語彙と基本的文法構造をかり、これを文章化した白話を——たとえそれが不完全なものであつたとしても——ブルジョア・インテリーの言語として、どこにも實在しない大衆語をこれに機械論的に對立させてしまつた。もつとも、かゝる傾向は抗戦後ラテン化工作者によつて十分反省されており、北方語のラテン化が主要な工作となつてゐる。

5 中共地區の動き

ソ聯各地の華僑の間でラテン化運動が行われていた頃、江西省に毛澤東の指導するソヴェートが劣悪な物質的條件にもかゝわらず建設されていた。土地を分配された農民の生産意欲は高まり、強い文化的欲求をもつようになつた。中共の文化政策は農民の生活の向上をはかることにより、自發的な文化的欲求を導き出す方法をとつていたが、大衆の生活の變化に即應して全ソ區に文盲退治の大衆運動を展開した。各村各機關に夜學や識字班が組織された。

一九三四年一月のソヴェート全國大會の席上、中華ソヴェート共和國臨時中央政府主席の資格で毛澤東が、過去二年間の工作報告を行つた際、かれは速かな文盲退治の必要を強調している。

毛澤東が中國革命の最初の根據地であつた井崗山の山中でみずから紅軍の兵士たちに讀み書きと小銃射撃を教えたと傳えられる事實はまことに象徴的である。この時代に識字教育は中國の各地で普遍的に行われていた。たとえば鄉村教育運動者の先驅者である晏陽初（ジェイムズ・イエン）は河北省定縣に農民教育のための實驗區を設けて大衆に識字教育をしてかなりの成績をあげていた。かれの運動の特徴は、中國の社會の四つの惡——貧・病・愚・惡政を追いはらうために、まず文字を教えて教育を普及し、經濟生活をたてなおし、公衆衛生を發達させる。そうすれば、大衆は自然に自分たちの手でよい政府をつくりたいという要求をもつようになる、というのである。社會學者費孝通はかれを批判して次のようにいつている。「わたしは識字のテキストとしての價值を否定するものではないが、農民はけして八千字課によつて自覺するのではない。晏氏は逆立ちしている。農民は識字によつて自覺するのでなく、逆に一たん自覺した農民は識字を欲求するのみならず、この不合理な社會機構の改造に自己を立ち向わせる。この自己解放運動の過程で、さらに識字の欲求が高められてゆくのだ。」（現代中國辭典・現代教育）

その他、新聞はじめ黨の刊行物や宣傳文の黨八股的傾向はきびしい批判ののちあとをたち、民衆の意見を反映してできる限り土語や俗語をとり入れて大衆化し、またいくたの簡體字が新しく作られ、各機關の正式の報告にまで採用された。要するにこの時期は今日の言語政策が初歩的な形で打出されたものといえよう。

一九四二年、「反對黨八股」や「文藝講話」によつて文章の大衆化・文藝の大衆化に對する明確な指標がらちた

てられた。このよびかけに答えて、作家たちは民衆の言葉を文學語として精鍊し、發想法をふくめた眞の意味の文章の大衆化への努力を開始した。

6 一九四九年以後

一九四九年十月、中華人民共和國が生まれ、中國革命が新しい段階に入つた前後、言語文字の改革に關して新しい動きが北京と上海にみられた。北京においては各派の語文工作者が統一戦線を結成し、その結果、同年十月に中國文字改革協會が成立した。この會では國語ローマ字、ラテン化新文字その他の改革案を検討し、より完全な方案を生み出して將來條件の成熟した場合、大規模な文字改革を行う準備として、當面の具體的目標を定めた。同じころ上海新文字工作者協會が設立され、ラテン化新文字の推進に當つていた人々が結集し、解放後の新しい工作計畫をたてた。

しかし、この時期において新政府は文字改革という大問題に對しては、きわめて慎重な態度で臨み、はつきりした態度を示さなかつた。だが、一方では勞働者農民兵士の文化水準を高めるといふ一刻の猶豫もならぬ問題に對しては「職工業餘教育に關する指示」「軍隊における文化教育に關する指示」をやつぎばやに出し、きわめて實際的な、大衆の要求に合致した文盲退治・識字教育にのり出した。毛澤東はこうした運動を圓滑に推進するため、常用漢字の研究と漢字簡易化の工作を指示したといわれる。この頃すでに鄒建華の「速成識字法」は人民解放軍の指導下で試みられており、旅順大連地區では大規模な識字運動が東北人民政府の下でくりひろげられていた。要するに政府および黨の指導下では、漢字の整理および標音常識の普及という方向へむかつていた。

一九五一年六月二十一日、プラウダ紙上に「言語學におけるマルクス主義について」というスターリンの論文が發表された。この論文は三週間後はやくも人民日報に譯載されひきつづき各新聞雜誌に轉載された。われわれはこの論文の内容について批評することは自由であるが、この論文の短い頁数のなかに言語に關するあらゆる問題が網羅されていることを否定できない。この言語に關するプログラムは新しい出發に臨んで統一戰線を結成しつゝあつた中國の語文工作者たちに自己の仕事を反省させ、將來の仕事に理論的認識を與える大きな材料になつた。

一般に、過去における中國の言語文字改革運動と言語研究は言語一般に關する明白な認識に支えられていたとはいいがたい。語文工作者は民族共通語と方言の關係、及びそれらの發達における法則についての理論的準備と歴史の視野にかけていたために、かなり多くのエネルギーを空費した。言語學者は言語の構造・特徴、あるいは言語發達の基本的法則をあまり重要視していなかつたため、その言語研究は言語文字の改革に大きな貢獻ができなかつたのではあるまいか。

また過去における中國の言語文字改革運動はその立場の如何にかゝらず現實から離脱し、全國民的要求にしくり結合していなかつた點がある。たとえば注音字母を例にとつても、祁建華がこれを武器として文盲退治を行うまで、誰もこれをこのように利用しえなかつた。國民政府の下における歴史語言研究所の人々はいくたの業績を残してはいるが、言語のある要素を孤立的に取上げ、たとえば音韻史の研究に言語史の研究が伴わないというような片面的な缺點をまぬがれていない。しかも、それは全く現實から離脱し、全國民的要求に結合せず、客觀的には國民政府の文化的裝飾品にすぎなかつた。

かくして、スターリン論文は、その當時日程に上つていた具體的問題を、スターリン論文の理論的内容に適合させて解釋するというだけでなく、語文工作者や言語學者に、理論と實踐の問題を深刻に反省させることになつた。

スターリン論文が次第に一般に理解されるに従つて、政府が推進してきた識字運動と漢字整理を中心に、一般言語學・語法・語彙・民族共通語と方言、文字改革、あるいは語文教授法に關する論文が連日新聞雜誌に掲載され、廣汎な人民大衆がその討論に参加し、言語問題専門の雜誌が全國民の要求に答えるために幾種類か刊行されることになつた。また一方ではすべての語文工作者が組織され、國家の科學研究機關と密接な連絡をもつようになつた。一九五二年二月、中央人民政府文化教育委員會の中に中國文字改革研究委員會が正式に成立し中國文字改革協會は發展的解消をとげた。この委員會は一九五二年の主要工作として、中國文字の表音化方案を研究し提出すること、漢字の整理と簡易化を研究して提出すること、表音文字の教學方法を研究し提出することを決定した。

これに呼應して中國科學院語言研究所においても、現代中國語の基本語彙と基本語法、國內少數民族の言語文字の調査研究、文字改革問題という風に重點的な目標をかゝけて研究に着手した。かくの如く、一九五〇年から最近に到るまで語文工作者はかつてみない活潑な工作を行い、建設的議論を公にしているが、人民大衆の語文學習熱も全國的に普遍化し、多彩にして豊富な語文運動をくりひろげている。

7 問題の要約

以上、各時期にわたつて通觀してきたいくつかの問題の主要なものは、だいたい共通語（または標準語）の問題、文章の問題、文字の問題の三つに歸納することができる。

【共通語の問題】 共通語の問題は民族形成の一要因として、その過程に発生したものである。衆知のように、民族は歴史の一定の時期、すなわち封建制を克服して勃興する資本主義の時代の歴史的産物である。資本主義が封建主義に最終的に勝利を収めるためには、ブルジョアジーが國內市場を征服するとともに、同一の言語を話している諸地域を國家的に統一することが必要であり、そして一つの言語の發達とそれの文章への定着を妨げるあらゆるじやま物をとりのぞかなければならぬ。

中國には純粹の意味の資本主義の時代はなかつた。しかし資本主義的な要素は歴史の長い歩みのなかに次第に積みかさねられていた。辛亥革命（一九一一）はブルジョアジーの力がある程度成長していたことを物語る。かれらはさらにブルジョア的思想によつて武装し、封建的儒教思想に對する闘争を開始した。二〇世紀初頭の中國においてブルジョアジーの存在は否定することができない。しかし中國の場合は、とくに一九一九年の五四いで、中國人民の新しい民族的結集が發展していく過程、すなわち新民主主義革命の發展過程が民族共通語の基礎が確立する場として重視されなければならない。

十三世紀の元時代以來、北京は全國の國家生活の中心であつた。北京語は廣大な範圍にわたる共同使用の過程に次第に優越的な地位を獲得して、民族共通語の基礎たりうる條件を積みかさねてきた。民國になつてから提唱された、北京語による國語統一の方向はすでに歴史的に決定されていたといえよう。

しかし、共通語と方言の問題は民國初年の讀音統一からラテン化工作者と國語運動派の對立を経て、今なお明確な解決をみていない。現在の中國は歴史上まれにみる統一を示しているが、さらにこの統一を強化し、その基礎の

上に文化水準を高めるためには、この問題を正しく解決しておかなければならないし、漢字を表音文字に改めるためにも、この問題を無視しては實現しえない。

スターリン論文發表以來、語文工作者はもとより文學者教育者からもこの問題はとりあげられて討論されている。中國の民族共通語はまだ成立せず、現在成立の過程にあるという點では、すべての人々の意見は一致しているが、どういうコースを通過して成立するかについては二つの大きな對立した意見がみられる。

その一つは、一地方の方言は民族共通語に發展しうる、現在の中國の多くの方言のうち政治經濟的集中の現状からみて、首府の言語である北京語ないし北方語は疑いもなく最も優越した條件を備えているという。この派の意見は最近一そう發展して、北方普通語といわれる安定性を缺いた言語ではいけない、北京語のように安定した言語でなくてはならないという議論があらわれ始めた。

他の一つは、方言の獨立的存在を支持し、方言を發展させ、それらが融合して民族共通語へ發展するといふのである。

前者はかつての國語運動派の意見に似ており、後者は言語の交配によつて新しい言語が生まれるとするマール言語理論の影響をうけたラテン化工作者の意見に似ている。

しかし前者が結果からみて國語運動派の意見に似ているとはいへその立場は全く異なっている。國語運動派は一部階級の利益を反映して、上から下へ國語を強制し、當時實現の社會的基礎をもたなかつたのに反し、最近の意見は勞働者農民が團結して民族を解放し國家を建設していく過程で全國民の念願として提出されたもので、實現の社

會的基礎はきわめて強固だと考えられる。民族共通語形成のコースは、理論的にも實際的にも、前者の意見に落ちつきつゝあるのではなからうか。

【文章の問題】 文章の問題は要するに、文章語（ないしは文學語）と全國民的言語との結びつきの問題である。口語から全く遊離した文語や、一部階級のかたよつた好みから文章語を解放して、全國民的言語に接近させ、その社會的機能を擴張させようとするのがこの問題の本質である。

文章語は民族形成の過程に次第に全民語に近づき、可能な範圍において全民語の特徴を定着するようになった。しかし、文章を人民の言葉に近づけ、民族共通語の方向に定着させるといふ問題は解決されてはいないのである。一九四二年、毛澤東によつて基本的方向が與えられたが、文章問題はまだ未解決な事が多い。その原因は、まだ民族共通語が成立していないこと、文語の余力が残つており、かつ漢字の文章への逆影響を完全に阻止しえないことである。

「このような言語狀況のもとでは具體的にどうにすればよいのか、語彙語法をできるだけ北京語北方語に近づけ、大衆に理解できない歐化的要素や文語的要素をやめなければならぬが、一方、不健康な土語的表現をさげ、語法を精密にするため、歐化的要素や文語的要素をとり入れることも必要であらう。

抗米援朝運動と國內建設の進展に伴つて、一九五一年六月、人民日報に「祖國の言葉を正確に使い、言葉の純化と健康のために闘え」といふ社説が掲げられ、呂叔湘らの「語法修辭講話」が人民日報に連載された。同年九月、中央人民政府出版總會は「標點符號用法」を制定した。「語文學習」といふ雑誌が、生産活動社會發展の武器とし

ての言語文字の正確な學習を目的として出版されたのは翌十月のことであつた。この動きに呼應して、語言研究所では語法體系の樹立に努力し、雑誌「中國語文」の創刊と共に語法講話を連載し始めた。

要するに正しい思想の表現と生産の能率のために重要な意義をもっている文章の問題について、政府ではしばしば注意を喚起し、語文工作者もこれに呼應して非常な努力を行つたので、實際の狀態はかなり改善されたことは事實である。しかしなお語彙語法の研究については、その根本的性格の理論的な論争が始まつたばかりであり、また中國語のもつている論理性や形象性などに關する文體論的研究は全く未開拓である。

【文字の問題】 文字の問題には漢字の整理・簡易化と識字教育という問題、および漢字改革すなわち表音文字の作成という問題がふくまれている。前者は最終の目標である中國語の表音文字化へ達するまでの間の過渡的な問題である。後者は中國の言語および社會の歴史的發展過程に發生した必然的な要求である。

中國の言語の長期にわたる發展の結果、表記法に關して次のような要求が生じた：形成されつつある民族共通語を漢字で書かれた文章の上に定着するだけでなく、全國民の口頭語の上においても統一すること、中國語の多音節化の結果を明確な言語單位に定型化すること、現代語の語法的な精密化の傾向をおし進め、民衆の言語により一そう接近させて、その傾向を完成させること。これらのことを解決するためには、表音文字が最も望ましいという結論は今日ほとんど疑問の餘地がないといえよう。漢字という難しい文字體系を改革し、現代語の特色を生き／＼と表記しうる簡單で合理的な表音文字を生み出すことは、あらゆる言語問題のなかでも、最もさし迫つた歴史的課題であつた。

ただ解放後、スターリン論文のなかで、言語は上部構造でなく、突變しえないという點を根據にして、漢字を保存しなければならぬという、以前にも見られた保守的な考えが再び起つたが、この議論はすぐ訂正された。

言語と同じように、漢字は上部構造ではなく、土臺の變化とともに變化しないし、もともと階級的なものではない。しかし、あの難しい漢字が統治階級によつて獨占されてきたことも事實である。また言語とちがつて文字は人為的なものであつて、言語の基本語彙や基本的文法構造にくらべて可變性が大きい。中國の言語の長期にわたる發展の結果、漢字を表音文字に改める必要があり、またそのことが大衆の文化生活を高めるのに適當であれば、漢字は廢止されねばならぬ。

だが突然漢字を廢止することは、歴史を切斷し、言語生活を混亂をもたらすことすらでもない。毛澤東は、文字は一定の條件の下で改革しなければならぬといつてゐる。語文工作者や言語學者はこの一定の條件を作りあげ、努力を始めた。

大衆の文化の向上を念願する統一政府の成立がその條件の一つであることはいうまでもないが、その外にどんな具體的條件が必要であるのか。その一つは、政治經濟が集中して民族共通語あるいはその基礎が成立してゐること。二つは、表音文字の方式が中國語の言語構造に適し、大衆に受け入れられるものであること。

こういう實情に直面して文字改革はきわめて弾力性のある形をうち出している。表音文字の研究實驗のかたわら漢字の簡易化と常用漢字を研究普及し、識字教育を大規模に實施している。とくに識字運動に對し、政府は非常な熱意を示しているが、以上のような漢字の整理と注音字母を使用する識字教育は、漢字を保守するために行われて

いるのではなく、結局統一的な表音文字を實現しようとするための道路清掃の方法なのである。

要するに、第一の条件ははまだ實現されていないが、政治經濟の集中とあいまつて、いつか實現される日も来るだろうし、その日はそう遠くないであろう。第二の条件を満足させるような表音文字は目下検討中であるが、現在知りえた所では、だいたい注音字母を土臺にして考えようという方向に進んでいるようである。遠からず何らかの形で發表されるであろうが、命令一下、直ちに文字改革が實現されるわけではない。技術的な問題は前途に山積している。

む す び

以上三つの問題に要約された言語文字改革運動は結局、書き言葉をふくめた民族共通語を育て、その普及を高めるといふ一つの問題に集約されよう。

中國のように封建的要素が強く残っていた半植民地半封建社會では民族共通語を育てその普及を高めるためにきわめて、強力な障害がいくつも横たわっていた。それを一つ一つはねのけながら、民族共通語を自由に發展させようとしたのが言語文字改革運動であつた。

全體の歴史を通觀してみると、各時期において各種各様の立場から努力がなされ、それぞれ一定の意義をもち一定の役割をはたしてきたが、問題の解決はすべて現在へもちこされた。

解放後の新しい段階では、文化の大衆化を阻んでいた根本条件が解決されたこと、言語に對する正しい觀點が明確になつたこと、文化建設國家建設において占める言語の位置が十分認識されるようになったことなどのため、言

語文字の問題はひとり語文工作者だけでなく、國民全體の緊急の問題として論議實踐されるようになった。中國の言語問題がいつ根本的に解決されるか、もとより豫測の限りではないが、ただ確實にいえることは、「われわれは自己の歴史を尊重すべきであつて、歴史を切斷することはできない。しかしこの尊重とは、歴史に一定の科學的地位をあたえ、歴史の辯證法的發展を尊重することである」(新民主主義論)という要請にこたえて、中國の語文工作者は過去の仕事を科學的に批判吸收し、利用しうる方法をつくして新しい國民文化の創造に服務しているということである。(おわり)

本稿は現代中國學會昭和二十八年年度全國大會の第二部、共通論題「新國家創成過程に於ける中國文化人の役割に就いて」に對して「文化建設と語文運動」と題して行つた報告の一部をもとにして、これに、補筆したものです。本稿では、頁數に對する顧慮もあつて、若干部分を割愛しました。それらの點については、別に刊行される豫定の現代中國學會の大會報告を御參照いただきたいと思ひます。なお資料の借用その他について御援助をいただいた大阪外國語大學の伊地智善繼氏に對して厚くお禮申上げます。